

編集： 山田浩司 & 美澄

Address: 2208 North Quantico Street, Arlington, VA, 22205, USA

Phone: 1-703-241-0621 E-Mail: mickeyy@pc4.so-net.ne.jp URL: <http://www.sanchai.net>

ちさと4歳、お姉ちゃんの自覚は未だゼロ



5月20日は千智の4回目の誕生日だった。最近、サンチャイ通信ではお兄ちゃんの影に隠れてとんとご無沙汰のちーちゃんであるが、パパに盛んに媚を売る「ウツフン系」から、大きく口を開けて笑いを連発する「ガハハ系」への宗旨替えの真っ最中である。かねてからコミカルな仕草で笑いを誘ってきたお兄ちゃんの後を追いかけて、千智も徐々に普段の立居振舞に笑いを誘う要素が徐々に増えてきた気がする。しかも、笑い方が微笑から爆笑へと変化してきたので、ちょっと下品だとパパは気を揉み始めている。

気に入らなければ納得ゆくまで妥協をせずに「泣き」を貫く姿勢は、樹生以上である。樹生には道理を説明すれば納得してくれるが、千智の場合は全く説明の余地がない。ないものをねだって要求をはねつけられると、とにかく泣けばなんとかかなると思っているふしがある。しかも、時としてウソ泣きまで繰り出すしたたかさもある。見た目のクネクネアクションとは裏腹に、相当に強い女になりそうだ。

人の話をきちんと聞いていないところはパパ譲りである。兄妹二人で悪さをしてパパやママに怒られても、お兄ちゃんは自分が悪いことをやったと素直に認めてきちっと反省してくれるが、隣りにいる千智は怒られたのはお兄ちゃんだけだと思っているのか、全く我関せずの様子である。自分が怒られていたのだとわかると取りあえず大泣きの素振りを見せる。それでも聞いているならまだいい。同じことを3回、4回と繰り返されないとなかなか聞かないこともある。「テレビは離れて見なさい」「早く服を脱いでお風呂に入りなさい」「御飯食べに来なさい」——私たちが何度も言われたセリフである。

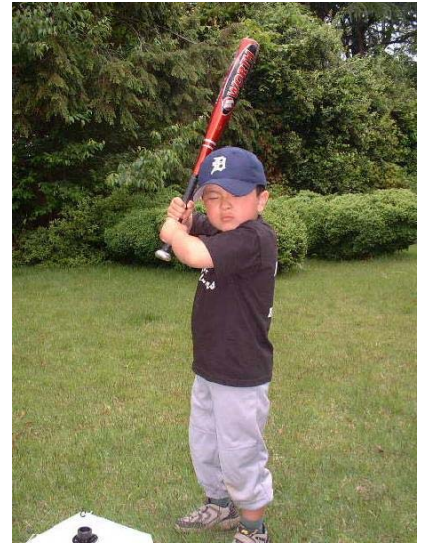
朝の目覚めが悪いのはどちらかというとママ譲りである。千智は託児センターで昼寝をしているので夜の寝付きが非常に悪い。9時に就寝しても、11時頃までベッドの中でごそごそしていることはざらにある。こんな時間まで起きていると、今度は朝が起きられない。我が家では取りあえず朝6時に目覚まし鳴るが、これで起きるのは先ずパパで、6時30分に起きるのがママで、夜の寝付きが良い樹生もまあまあきちんと目を覚ましてくれるのだが、千智はてんでダメである。何度「起きろ」と言っても目を覚まさないし、いったん返事をしてベッドから起き出しても、隣のベッドに頭を傾けてうつ伏せに寝入ることもよくある。

赤ちゃんがもうすぐ生まれて自分がお姉ちゃんになるという自覚は、まだ全然ない。千智は未だ自分がお姫様で周囲からチャホヤされないと気が済まない様子だ。

山田樹生まもなく6歳、お兄ちゃんの自覚

最近、樹生お兄ちゃんがとても素直になった。気持ちの切替が非常にスムーズにできるようになり、何かオモチャで遊んでいても、御飯だと言えはすぐに遊びを切り上げるし、隣のトーマスと遊んでいても、野球の時間だと言えはちゃんと遊びを切り上げて野球の準備をするようになった。

週2回の野球（ティーボール）の試合のうち、平日夕方はママが忙しくてどうしても参加できなかった。今年のワシントン、週末どころか1週間の大半が雨という天候不順で、土曜日の野球も5割以上の確立で雨天中止になることがあった。実質樹生が野球の試合に参加したのは5回前後しかないが、それでも樹生は大人がゆっくり投げてくれるボールを打ち返して出塁するところまではなんとか行くようになったし、内野手としてゴロを捕球したらすかさず一塁手に送球することもなんとか理解したようである。パパが草野球を始めたのは小学校に入学してからだったから、樹生はそれなりにパパよりも先行しているように思う。次にグローブとバットを握るのは日本に帰って本当に小学校に入学してからのことになるだろうが、夕食の後のTV中継で王・長島を見て育ったパパ以上に、樹生は野球に接してきた。イチローや松井だけでなく、野球場に連れて行って、鉄人カル・リプケンや25億円プレイヤーのアレックス・ロドリゲス内野手をナマで見せてきた。きっと少年野球はなんとなしには続けて行くことだろう。息子とキャッチボールができるパパはこれからも楽しみだ。



そんな樹生に長男としての自覚を感じることも時々ある。後でも紹介するが、パパは5月から6月にかけて仕事が非常に忙しくて帰りが毎晩遅かった。その間に、樹生お兄ちゃんは食事の後片付けを率先してやるようになったという。自分の食器は自分で流しに運び、自分で洗おうとする。ワレモノを洗う手先は危なっかしくてなかなか黙って見てはおれないが、人から言われてもいないのにそういうことがさりげなくできるようになってきたお兄ちゃんは頼もしい。

頭の回転もそれだけ速くなってきたということなのかもしれない。6月8日から14日にかけて、パパは東京出張で家を留守にしたが、その間に樹生にオセロゲームを挑まれたママは、すんでのところ樹生に負かされる場所だったという。トランプの神経衰弱では、既にママは樹生にはかなわないが、比較的先の先を読まねばならないオセロでも負けそうになるということは、子供の成長が嬉しい反面、ちょっとヤバイんじゃないかと危惧もする。目下のブームは「遊戯王」のカードなのだが、各カードに表記されている攻撃ポイントを足し合わせて、「このカードとこのカードを合わせると、このカードよりも強い」と言っている樹生を見て、最初はたかがカードゲームと馬鹿にしていたパパも、こりゃ少しは算数の勉強になっているかと思いつつある。只今、樹生には、公文式の計算ドリルの小学校2年生の引き算を時々やらせている。学校の生徒が皆こんな算数を習っているわけではなく、樹生の場合は親しい友人の1人カーオがずば抜けて算数ができるらしい、その影響で数に興味を持っている。樹生を見ていると、友達にも恵まれていると思う。

あれを買え、これを買えとつまらぬダダをこねることは少なくなってきた。事前に「あそこに言っても何も買わないから」と念を押しているということもあるが、以前であればたとえそうわかっていても実際に行けばやはり欲しい物があつた。パパの見送りに空港に行った際、「飛行機のおモチャが欲しい」と樹生が呟いたので、「それじゃあ日本のお土産の代わりに飛行機のおモチャにしようか」と尋ねたところ、「じゃあ飛行機のおモチャはいらない」とすぐに諦めた。より長期的に見て自分にとって何が一番得か、ちゃんと考えられるようになりつつある。遊んだオモチャを全部自分で片付けられるようになったらなお偉いのだが…

浩司パパ、地元剣道トーナメントで活躍

6月7日（土）、私が所属する「志道学院和心館道場」の開館10周年を記念した剣道トーナメントが、アメリカ北東部の13クラブを招待し、バージニア州ヴィエナで開催された。

多分、これが滞米生活最後の剣道トーナメントになるということで、私にも内心期するところがあった。ワシントン周辺の5クラブの剣士とは手合わせが大体済んでいるので、たとえ個人戦三段以上の部であっても、組み合わせに恵まれれば三回戦ぐらいまでは行けるのではないかと思っていた。むしろ楽しみだったのは団体戦の方だ。メンバーはその場で決めるのがアメリカの試合の慣習なので、自分がどこのチームに入るのかはわからなかったが、普段のオークトンでの練習では調子はまあまあだったので、比較的強いチームに入れてもらえるだろうと期待していた。自分が負けても、他の人でポイントを稼げると考えれば気持ちは非常に楽だ。



所属団体が主催するとあって朝からボランティアで大忙し。私達は朝一番の子供の部から審判に駆り出され、試合場に立っている時間が長くなった。普段デスクワークばかりだから1日中立っていてその後自分の出番が来た時には既に疲労困憊だったという経験を昨秋のチャールストントーナメントでした。だから、試合の1週間前の週末、日中庭仕事や樹生の野球の試合の補助をやってなるべく座らないで過ごした上で、夕方から近所の5kmロードレースに出場するという「練習」をして体を慣らした。

結果はというと、個人戦（三段以上の部）、団体戦（和心館Cチーム）ともに準決勝敗退の3位だった。個人戦は2回戦で当たる予定だったクリーブランドの井下先生（六段）との対戦が流れ、その前後の対戦相手は既に普段の稽古で力関係がわかっていたので、あまり苦労することなく準決勝まで勝ち上がった。準決勝は上段の選手との生まれて初めての対戦で、普段上段の剣士と稽古する機会がない自分としてはかなり戸惑い、中盤でコテを取られた後もなかなか攻め切れず、時間切れで敗退した。団体戦の方は1回戦、2回戦とも危なげなく勝ち上がったが、準決勝では、先鋒が三段以上の部の優勝者と当たったので負けるのは仕方ないとしても、自分の計算上では確実に2本取って勝ってくれる筈だった次鋒がなんと引き分け、中堅の自分がどうしても2本勝ちしなければいけない苦しい状況に陥った。駅伝と同じで、剣道の団体戦も、序盤で試合の流れをつかみ損ねると後で挽回するのはとても難しい。相手の方は引き分けでもOK、隙あれば出端のコテを狙うぐらいの気持ちで引いて戦ってくるのが見え見えで、私も思い切った攻めになかなか入れなかった。コテを取ったと思ったのが何本かあったが結局審判の旗を1本上げるのがやっとこさで、結局私も時間切れ引分けに終わってしまった。流れを変えられなかったのは中堅としての自分の力不足だ。副将が敗れた時点でジ・エンドだった。

個人的には4勝1敗1分で悪くなかったと思う。1日に6試合もさせていただけたのはとても光栄だ。団体戦の他のメンバーのお陰である。個人戦と団体戦と同時に入賞するのも生まれて初めての経験だ。多分、アメリカでの最後の試合だと思うので、この成績にはとても満足している。課題も少しあったが、それはこれからの精進で克服してゆきたい。

今回のトーナメント、試合運営が極めて順調に進み、4時半過ぎに家族が観戦に訪れた時点では、既に閉会式の直前になっていた。パパの勇姿が見れなかった樹生君は、「パパが試合をやってくれないなんてズルイ」とご不満であった。パパは以前よりも普段の練習通りの力を試合でも発揮できるようになってきたように思う。次のチャンスはいつになるかはわからないが、見ていて「パパ、カッコいい!」と思える試合は、これからも観戦する機会がきっとあると思う。

今、この原稿を書いているのは6月も半ばを過ぎていて、ネタとしては少し古いのだけれど、「パパの自己申告書」シリーズを先月号で休載したので、ご紹介したい出来事がある。

5月19日から23日まで、日本の海外コンサルティング企業協会（ECFA）のマーケティングミッションを世銀で受け入れるお手伝いをした。このミッションの受け入れを自分で担当するのは昨年11月に続いてこれで二度目であるが、前は前任者から引き継いで日も浅かったので、何をどうやって準備したらいいのかよくわからなかった。それに比べて、今回は誰を誰に合わせればよいかはかなりわかってきていて、さらにミッションに参加した企業代表者にとって、自分が前例を単に踏襲することなく何をどうアレンジするのが最も好ましいのかを考え、それを実行した。

参加する企業からすれば、サービス調達が100%日本タイド（紐付き）の仕事を世銀から受注して、そこで積んだ実績を元にしてアンタイドの仕事の受注を国際機関から狙ってゆきたいと考えている。従って、日本の信託基金を受け取りながら年度末近くまで全く使途をはっきりさせていない世銀のタスクマネージャーを特定して、そのタスクマネージャーの専門分野と近いコンサルティング会社の代表者との面談を持ちかければ、短期的にでもそこそこ案件成立に繋がる可能性は高い。ECFA ミッションに参加した企業は6社で、各社につき7~8人の世銀・IFC職員との面談をアレンジした。引率で来るECFA事務局の方の分の面談も含めて、50件以上のアポを1人でセットした計算になる。世銀タスクマネージャーの特定段階から含めると、事前の約2週間は殆どECFA ミッションの準備にかかりっきりになった。しかも、ECFA側からは、参加企業のPRを兼ねたセミナーの開催の依頼まで受けており、このセミナーの案内を世銀グループ内に配信するだけでなく、自らがセミナーの司会進行役までこなした。加えて、自分が担当するセッションもあったので、参加者向けプレゼンテーションの資料も自分で作った。

援助業界でも、ひとたび日本から外に出ると、日本人の国際機関での備上件数が少ないのと同様、日本のコンサルティング会社が国際機関から案件受注する頻度が極めて低いという現実と直面する。日本政府のODA関係者の中には、民間セクターに便宜を図らずとも、本当に競争力のある企業はどんどん頭角を現し、放っておいても育つと平気で言う人がいる。でも、世銀で他の加盟国政府、大使館や世銀理事室が自国のコンサルタントの受注促進に躍起になっている現状を近くで見ていると、特定企業への利益誘導に繋がることには協力しないというそう人たちの姿勢に疑問も生じる。各企業毎のマーケティング努力に委ねるべき領域との線引きは確かに必要だが、どこにどんなことをやっている職員がいるのかも把握していない駆け出しの新規参入企業に対して、何人かの職員を紹介してマーケティングの取っ掛かりを付けるくらいのサービスはしてもいいのではないかと私は思っている。そうした個別面談から派生して、この人に会ったらいいという話が生じた場合、そこからは各企業の努力次第だと思う。

ECFAのマーケティングミッションの後、自分の日本出張の準備に日本経団連の定期協議ミッションのワシントン側受入準備と続いたため、休日出勤は5月第2週の週末から連続4週間にも及んだ。特に自分の出張直前には、最もひどい日で午前3時近くまでオフィスの残って準備をしていたこともある。勤務時間の長さは自分の能率の悪さもあって一概には褒められないと自戒しているところもあるが、ことECFAのマーケティングミッションに関しては、これだけやれば自分としては最大限の協力だということまではやったという自信もあり、ミッションの方々がお帰りになる頃には若干燃え尽きたような気持ちにも襲われていた（次なる日本出張&経団連ミッション受入のダブルイベントのせいで燃え尽きた余韻に浸っている暇もなかったが）。

これで各社とも短期的には1件の受注、長期的に数件の受注に繋がれば御の字である。それを突破口にして、他国のコンサルタントとの競争に勝ち抜き、会社の知名度を世界的にアピールするところまで到達していただければ、その余波は日本の大学の先生やNGO、日本の二国間援助機関にも達することだろうと密かに期待している。

3人目は男の子、体力もつかな？

3人目を妊娠した事は先月号でお知らせ済みですが、胎盤検査（Chorionic Villus Sampling）の結果により男の子である事が判明しました。

今回の妊娠は私が35歳になってからだったので、ダウン症等の遺伝子異常が心配で、羊水検査などの遺伝子検査について病院で聞きました。羊水検査と胎盤から遺伝子を調べる方法があると言われ、それぞれ実施時期が、羊水検査が16~18週、胎盤検査が10~12週と胎盤検査のほうが早い時期に出来ることが判りました。二つの検査とも検査結果の精度は殆ど変わらないのですが、胎盤検査のほうがより早い時期に行なわれるため、若干流産の確率が高くなるとの説明でした。その点が若干不安だったのですが、やはり早い時期に判ったほうが良かったので胎盤検査を受けることにしました。この点はアメリカにいて最新の検査を受けられラッキーだと思います。

検査は11週目の金曜日に予約をし、浩司さんに休みを取ってもらい一緒に行きました。当日は、先ずカウンセリングで検査についての説明と結果が出た後の対応とそれに対しての質問をしてから検査を受けました。検査にあたって膀胱を一杯にしておかなければならないため、いつもより多くの水を飲むことを心がけました。検査はまず超音波映像によって胎盤の位置を確認し、私の場合は、後ろのほうに胎盤がついているため子宮口の方から胎盤を採取することになりました。お腹側に胎盤がついている場合、羊水検査と同様にお腹に針を刺して胎盤を採取するそうです。超音波の画面を見ながら胎盤の位置を確認し、細い管で胎盤を採取する作業は、ちょっと「痛っ!」と思うこともありましたが、あまり痛みは無く無事に終わりました。

検査終了後は安静に過ごした方がよく、お腹も張る感じがしたので、家に帰ったら横になって休んでいました。お風呂も2~3日は感染症等が怖かったので、子供達は浩司さんにお風呂に入れてもらい私はシャワーで済ませていました。土日は浩司さんの協力もあり、のんびり過ごし、流産することもなく、無事妊娠継続中です。流産や感染症の心配はやはりあったのですが、遺伝子異常の不安も捨てきれなかったもので、今回検査を受けたことに満足しています。

検査結果は約2週間後にでて、遺伝子的には問題なく、男の子であると判りました。やはりネパールの「ヘソ占い」は当たりましたね。年齢が上がってからの男子出産、子育ては体力が落ちているので、今まで以上に大変かな？どうなりますことやら、来年の今頃は子供が3人になって賑やかになっていることと思います。当面の目標は、元気な赤ちゃんを産むことです。赤ちゃんは出てくるまで、五体満足かわからないので心配ですが、皆さん3人目が無事に生まれることを祈って下さい。（美澄）

編集後記~山田家短信

- 妊娠により、主人より一足先に帰国することになりそうです。そして、アメリカに来て間もなくの頃から母子ともどもお世話になった佐藤さん御一家も6月に帰国します。今年の夏は仲が良かった人たちが帰ってしまうので、友人がいなくなることを考えたら、早く帰ることになって逆に良かったのかもしれない。友人につられて、今から少しずつ荷物の整理をし始めました。いつもギリギリにならないと片付けられない私ですが、今回は早めにやっておきたいと思っています。（美澄）
- 5月30日（金）のことですが、樹生の通うタッカホー小学校の課外プログラムで、「ファッションショー」なるイベントが行なわれました。課外プログラムに参加する児童が、歌を歌ったり踊りを披露したり、さらには課外プログラムの担当教員である黒人のオバサマグループによるソウル音楽の合唱があったり、約1時間の学芸会的イベントでした。このイベントでは、いろいろな国の衣装で児童がス

パパの体重

85 kg

(6月15日現在)

ステージに立つ本当のファッションショーも行なわれ、樹生は浴衣姿（なのに運動靴！）で舞台に登場し、照れくさかったのかややうつむき加減のムツリ表情でステージを左右に歩きました。パパとママは慌てましたが、それがなぜか観客席の父兄には受けていました。樹生の浴衣は、この日のために美澄ママが三鷹の実家から取り寄せたもので、その数日前からママはたけ合わせに追われていました。なお、この日のイベントでは、隣りのマリーがママの母国であるデンマークの歌を独唱しました。（浩司）



- 一方、千智が通うウェストゲート託児センターでは、6月2日（月）に日本人園児のお母さんグループ主催の七夕ショーが行なわれました。こちらでは千智がキティのイラストが入った浴衣姿を披露しました。こちらのイベントの準備でも美澄ママは大変だったようで、七夕の笹の調達から七夕の解説までこなしていました。（浩司）
- タッカホーもウェストゲートも、正規のカリキュラムは間もなく終了で、その後は8月末まで夏期特別プログラムに移行します。樹生も千智もウェストゲートのプログラムに参加予定です。本編の美澄ママの記述でも紹介しています通り、私の任期が予定通り10月中旬で終了するようであれば、家族だけは8月中に本帰国し、子供達は9月には日本の幼稚園に通い、ママは実家で11月の出産に備えるという方針であります。間もなく私の後任も決まり、予定通り10月帰国ができるかはその方との引継の関係次第という状況ですが、いずれにしても高い確率で家族だけは8月末帰国ということになるでしょう。タッカホーの先生方には大変お世話になったと感謝しております。（浩司）